

# 血管ゴースト化抑制に

## シクロケム γCD包接化クルクミン とαCD包接化ピペリン

シクロケム(神戸市中央区)は、クルクミンをγシクロデキストリン(γCD)で包接し、ピペリンをαシクロデキストリン(αCD)で包接して併用することにより、Tie2タンパク質の活性が向上し、血管のゴースト化を強力に抑制できると訴えている。ゴースト化を防ぐことは肌のシミやむくみ、メタボリックシンドロームなどの抑制に繋がり、同社は

エイジングケアに役立つとして提案を強化している。クルクミンはウコンに含まれる機能性成分で、抗酸化や抗炎症、抗メタボリックシンドローム、抗腫瘍、筋肉疲労改善、脳機能改善など様々な機能を持つと報告されている。また、摂取したクルクミンは腸内細菌に代謝されて、還元型クルクミンとして作用することが見出されている。しか

し、クルクミンそのものは脂溶性成分のため体内に吸収されづらく、通常の経口摂取では数割しか吸収されない。このため、クルクミンをγCDで包接し、ヒト臨床試験により生物学的利用能を検証。その結果、γCD包接型クルクミンは通常のクルクミンや他の高吸収型クルクミンに比べ、最も高い吸収性と生体利用能を示した。

さらに、同社はクルクミンを用いて老化を誘発する血管のゴースト化(透過性)に対する働きを調べた。ゴースト化に

さらに、同社はクルクミンを用いて老化を誘発する血管のゴースト化(透過性)に対する働きを調べた。ゴースト化に

さらに、同社はクルクミンを用いて老化を誘発する血管のゴースト化(透過性)に対する働きを調べた。ゴースト化に

生体利用能を高める働き

を持つことに加え、αCD

で包接することにより

体内吸収性も向上するこ

とをシクロケムは確認し

ている。

このような知見から同

社は、あらかじめ還元さ

れている還元型クルクミ

ンのγCD包接体も開発

した。

αCDで包接したピペ

リンと併用することば

Tie2タンパク質の活

性化に関して最強の組み

合わせと提唱する。昨

今、エイジングケアに注

目が集まる中で、血管か

らのアンチエイジングに

最適と訴えている。

ルイソチオシアネートの

12種類の化合物と比較し

たところ、クルクミンが

Tie2タンパク質の活

性を最も高めた。

Tie2タンパク質の

活性向上作用は、コショ

ウ科植物に含有するピペ

リンも備える。さらに、ピペリンはクルクミンの